

# KANeKA

The Dreamology Company

— Make your dreams happen —

平成28年3月期 第3四半期  
決算概要

2016年2月8日(月)

株式会社 **力ネカ**

# 目次

- 業績概要 P. 3
- 四半期別 売上高・営業利益 P. 4
- セグメント別 売上高・営業利益 P. 5
- セグメント別 事業概況 P. 6
- 業績予想・配当予想の修正 P. 7
- トピックス P. 8

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# 業績概要

- 売上高は、海外事業の拡大により対前年0.8%の増収。
- 営業利益・経常利益・四半期純利益はいずれも大幅な増益。
- R & D強化による新規事業の創出、グローバル化による事業拡大などの事業構造の変革が順調に進捗。

(単位：億円)

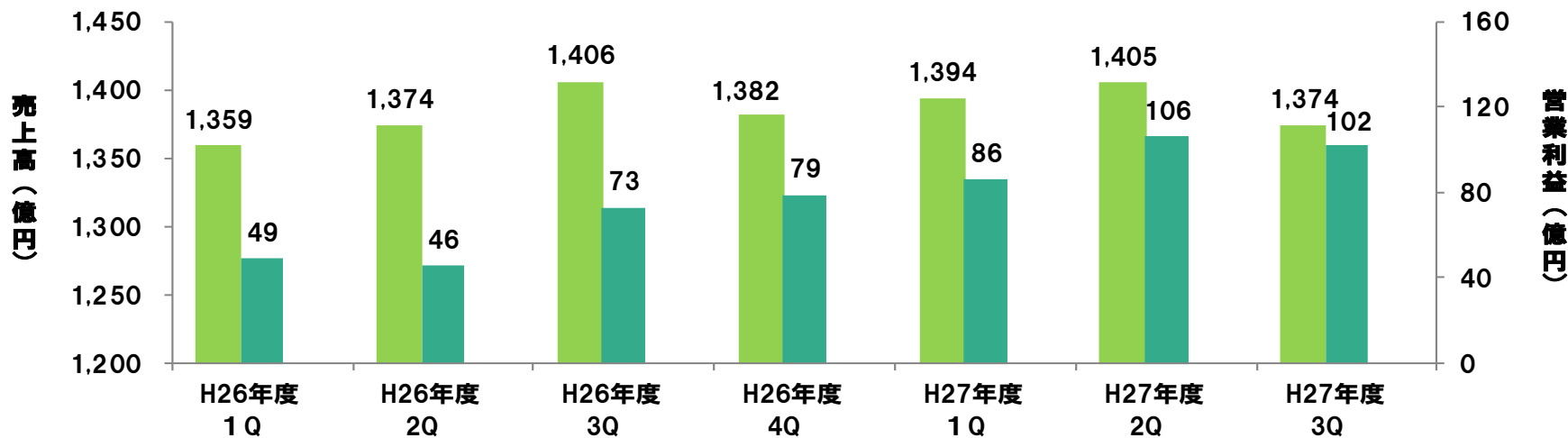
	H26年度 3Q累計	H27年度 3Q累計	増減	
売上高	4,140	4,172	32	0.8%
営業利益	168	294	126	75.1%
経常利益	174	257	83	47.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	100	164	64	63.3%
1株当たり四半期純利益	29.81円	49.15円		

# 四半期別 売上高・営業利益

- 売上高は、原油価格下落による販売価格低下の影響を受け伸長が鈍化。数量ベースでは順調に拡大。
- 営業利益は、前年3Qより利益拡大が順調に進み、2Qに続き3Qも100億円/Q台を達成。収益基盤強化が着実に進んでいる。

(単位：億円)

	H26年度				H27年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	1,359	1,374	1,406	1,382	1,394	1,405	1,374
営業利益	49	46	73	79	86	106	102



# セグメント別 売上高・営業利益

- 売上高は4セグメントが増収。ライフサイエンス・合成繊維は、海外での販売が好調に推移したほか、食品も販売数量を伸ばし増収。一方、原油価格下落による販売価格低下の影響を受けた化成品など3セグメントが減収。
- 営業利益は全セグメントが増益。化成品・機能性樹脂・発泡樹脂製品は販売数量増に加え収益性向上により、合成繊維は販売好調により大きく増益。

(単位：百万円)

<セグメント別>	売上高				営業利益			
	H26年度 3Q累計	H27年度 3Q累計	増減		H26年度 3Q累計	H27年度 3Q累計	増減	
化成品	82,375	78,172	△4,202	△5.1%	1,285	3,491	2,205	171.5%
機能性樹脂	71,143	69,954	△1,189	△1.7%	7,976	10,974	2,998	37.6%
発泡樹脂製品	50,118	50,413	294	0.6%	3,031	5,151	2,119	69.9%
食品	105,228	109,170	3,942	3.7%	1,566	2,472	906	57.9%
ライフサイエンス	39,782	43,452	3,670	9.2%	6,704	8,638	1,933	28.8%
エレクトロニクス	32,205	30,685	△1,519	△4.7%	△716	552	1,268	—
合成繊維、その他	33,152	35,356	2,203	6.6%	8,944	12,645	3,700	41.4%
調整額	—	—	—	—	△12,029	△14,566	△2,537	—
計	414,005	417,204	3,199	0.8%	16,764	29,360	12,596	75.1%

# セグメント別 事業概況

(単位：百万円)

		H26年度 3Q累計	H27年度 3Q累計	
化成品	売上高	82,375	78,172	<ul style="list-style-type: none"> <li>塩化ビニール樹脂は、国内需要は低調だったが、海外向け販売が引き続き増加した。</li> <li>塩ビ系特殊樹脂は、海外向け販売が増加した。</li> <li>か性ソーダは国内需要が低調に推移。</li> </ul>
	営業利益	1,285	3,491	
機能性樹脂	売上高	71,143	69,954	<ul style="list-style-type: none"> <li>モディファイヤーは、製品差別化力の向上とコストダウンへの取り組み強化、新製品の市場開発進展により利益は拡大。</li> <li>変成シリコンポリマーは、建築用途などでの他素材からの置き換えに加え、アジア市場での用途開発も進んだことから、海外市場を中心に販売が拡大。</li> </ul>
	営業利益	7,976	10,974	
発泡樹脂製品	売上高	50,118	50,413	<ul style="list-style-type: none"> <li>発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産分野および土木分野での販売数量が増加した。</li> <li>押出法発泡ポリスチレンボードは、消費税率引き上げ後に落ち込んでいた住宅関連市場が徐々に持ち直してきている。</li> <li>ビーズ法発泡ポリオレフィンは、中国での需要減退の影響を受けたものの、欧州市場では自動車分野を中心に販売数量が増加した。</li> </ul>
	営業利益	3,031	5,151	
食品	売上高	105,228	109,170	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品は、国内需要の伸び悩みと低価格志向が継続する中で、消費者のニーズを先取りした新製品の開発・販売に積極的に取り組むとともに、事業構造改革を進めたことから、事業採算が向上した。</li> <li>今後も食の多様化に対応すべく技術革新を進めていく。</li> </ul>
	営業利益	1,566	2,472	
ライフサイエンス	売上高	39,782	43,452	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器は、インターベンション事業の国内・海外向けの販売が堅調に推移。</li> <li>医薬中間体は、API（医薬品としての有効成分を有する原体）やバイオロジクス分野において販売が順調に拡大。</li> <li>機能性食品素材は、サプリメント市場におけるヘルスケア効果の認知が進むとともに、日本市場では機能性表示食品制度がスタートし、着実に販売数量が増加。</li> </ul>
	営業利益	6,704	8,638	
エレクトロニクス	売上高	32,205	30,685	<ul style="list-style-type: none"> <li>超高熱伝導グラファイトシートは、スマートフォンメーカーの新モデル立ち上げに伴って販売数量が増加したが、超耐熱ポリイミドフィルムは、スマートフォン市場の需要低調の影響を受けた。</li> <li>太陽電池は、事業構造改革が進み採算が改善した。</li> </ul>
	営業利益	△716	552	
合成繊維、その他	売上高	33,152	35,356	<ul style="list-style-type: none"> <li>合成繊維は、アフリカ市場での頭髪分野の需要が旺盛な中、当社の品質・ブランド力により、好調な販売が継続した。また円安が進んだことも寄与し、収益が大幅に拡大した。</li> <li>マレーシアにおける新工場建設は計画より遅れが生じているが、早期の稼働に向けて取り組みを強化している。</li> </ul>
	営業利益	8,944	12,645	
調整額	営業利益	△12,029	△14,566	
合計	売上高	414,005	417,204	
	営業利益	16,764	29,360	

# 業績予想・配当予想の修正

- 当社グループの3Q累計の業績は、事業構造の変革を進めた結果、引き続き順調に推移。4Qにおいては、世界経済について先行き不透明な状況が続くが、通期の連結業績予想を修正。
- 1株当たり年間配当予想は、前回予想より2円増額した18円（中間:8円、期末(予想):10円）に修正。

（単位：億円）

	H28年3月期			H27年3月期 実績
	前回発表予想 (5月14日)	今回修正予想	増減	
売上高	6,000	5,600	△ 400	5,522
営業利益	360	390	30	246
経常利益	330	340	10	248
親会社株主に帰属する 当期純利益	200	200	-	180
<b>1株当たり当期純利益</b>	<b>59.70円</b>	<b>60.00円</b>		<b>53.52円</b>
<b>1株当たり年間配当</b>	<b>16円</b>	<b>18円</b>	<b>2円</b>	<b>16円</b>
<b>連結配当性向</b>	<b>26.8%</b>	<b>30.0%</b>		<b>29.9%</b>

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# トピックス

## セメダイン(株)を株式公開買付けにより連結子会社化

事業展開

当社は、セメダイン(株)に対する株式公開買付けを2016年1月に実施し、4Qから連結子会社といたします。

セメダイン(株)は買付け発表時点において当社の持分法適用関連会社でしたが、資本関係の強化により、今後高成長が期待される市場のニーズを的確に捉え、製品開発への活用を目指します。

### <株式公開買付けの概要>

株数 : 3,212,000株 (買付け後の株券等所有割合 : 51.00%)  
期間 : 2015年12月9日~2016年1月13日  
買付代金 : 1,850,112千円 (1株当たりの買付価格 : 576円)



### <セメダイン(株)の概要>

会社名 : セメダイン株式会社 (東証2部上場)  
所在地 : 東京都品川区大崎一丁目11番2号ゲートシティ大崎イーストタワー  
事業内容 : 接着剤、シーリング材、特殊塗料、粘着テープ等の製造販売  
資本金 : 3,050,375千円  
設立 : 1948年4月22日

ご参考 : <http://www.kaneka.co.jp/service/IR/o0XKniCF>  
<http://www.kaneka.co.jp/service/IR/IEd1tkXx>



# トピックス

## 神戸ポートアイランドに 再生・細胞医療の研究開発拠点を開設

R & D

神戸ポートアイランドの「神戸MI R&Dセンター」内に、**再生・細胞医療に特化した研究開発拠点を設置し、昨年11月より本格的に活動を開始しました。**  
当社は長期ビジョン「KANEKA UNITED宣言」で健康を重点分野の一つと位置づけており、再生・細胞医療の実用化に向けて研究開発を加速させます。

再生・細胞医療の実用化に向け、以下の3点を中心に研究開発を加速させます。

また、一昨年9月に神戸国際ビジネスセンター内に設置した羊膜由来間葉系幹細胞（羊膜MSC※）の製造拠点とも連携を深めていきます。

- ① 羊膜MSCなど再生・細胞医療等に使用する細胞の調製（製剤化）
- ② 細胞を閉鎖系で簡便に調製できる各種デバイス・装置の開発
- ③ 医療用機能性素材関連技術やiPS細胞を活用した創薬関連技術などの基盤技術強化

羊膜由来間葉系幹細胞

※羊膜MSCとは、胎児付属物である羊膜に存在する幹細胞であり、筋肉、骨、軟骨、脂肪など間葉系に属するさまざまな細胞に分化する能力や免疫抑制作用を持つとの特徴がある。

ご参考：<http://www.kaneka.co.jp/service/news/151130>

# KANUKA

**The Dreamology Company**

— Make your dreams happen —